



しんちゅうのはん

だい4しょう



リーハイはニーファイに言いました。「主は、あなたたちがエルサレムに帰るよう^いにのぞんでおられる。ラバンという^{ひと}のところから、しんちゅうのはん^をもって来るのだ。」(1ニーファイ3：2-4)



しんちゅうのはんは、大切^{たいせつ}なきろくでした。リーハイのせんぞの^{こと}や、神^{かみ}がよげんしゃ^{はな}にお話し^{はな}になったことが書^かかれていたのです。(1ニーファイ3：3, 20)



レーマンとレムエルは、気がすま^きなかつたので、しんちゅうのはん^を手^てに入れるのはとてもむりだと言^いいました。二人は主^{しゅ}を^{しん}じてい^なかつたのです。(1ニーファイ3：5)



しかし、ニーファイは主^{しゅ}にした^{おも}がいた^いと思^{おも}いました。ニーファイは、主^{しゅ}のたすけ^{たすけ}によって、ラバンからしんちゅうのはん^を手^てに入れることができると知^しっていました。(1ニーファイ3：7)



レーマン、レムエル、サム、ニーファイの4人^{にん}の兄弟^{きょうだい}は、しんちゅうのはん^を手^てに入れるためにエルサレムへ引^ひきかえしました。(1ニーファイ3：9)



レーマンはラバンの家に行って、しんちゅうのはんをもらいたいとラバンに言いました。(1ニーファイ3：11-12)



ところが、ラバンはおこって、レーマンにしんちゅうのはんをわたそうとはしませんでした。ラバンはレーマンをころそうと思いましたが、しかし、レーマンはにげて帰って来ました。(1ニーファイ3：13-14)



レーマンはおこったことをすべて兄弟に話しました。こわくなったレーマンは、あきらめて、あれ野にいるお父さんのところへ帰ろうと言いました。(1ニーファイ3：14)



しかし、ニーファイは言いました。「しんちゅうのはんを手に入れるまでは帰らない。にいさんたち、もっと主をしんじれば、しんちゅうのはんは手に入るんだ。」(1ニーファイ3：15-16)



ニーファイたちは、エルサレムのなつかしい自分たちの家へ行って、しんちゅうのはんとかんするのために家にあった金ぎんをあつめました。(1ニーファイ3：22)



ニーファイたちはそれをラバンに見せて、しんちゅうのはんとかんしようと言いました。ラバンは、ニーファイたちがもってきたたからものが、ほしくてたまりませんでした。しんちゅうのはんを手はなそうとはしませんでした。(1ニーファイ3：24-25)



ラバンがめしつかいに、リーハイのむすこたちをころすようにめいじたので、ニーファイたちははげ出して、ほらあなにかくれました。ニーファイたちのたからものは、ラバンのものになってしまいました。(1ニーファイ3：25-27)



レーマンとレムエルは、ニーファイにはらを立て、ニーファイとサムをぼうでたたきました。(1ニーファイ3：28)



すると、みつかがレーマンとレムエルにあらわれて言いました。「やめなさい。主は、しんちゅうのはんを手に入れることができるようにたすけてくださる。ニーファイはおまえたちのしどうしゃになる人なのだ。」(1ニーファイ3：29)



ニーファイはにいさんたちに言いました。「主をしんじるんだ。そうすれば、ラバンも、ラバンのめしつかいもこわくはない。」ニーファイはにいさんたちをゆうきづけて、またエルサレムへ引きかえしました。(1ニーファイ4：1-4)



その夜、にいさんたちがじょうへきの外にみをかくしてから、ニーファイはエルサレムの町の中へしひこんで、ラバンの家の方へ歩いて行きました。(1ニーファイ4：5)



ニーファイがラバンの家に近づいて行くと、さけによった一人のおとこ男がたおれているのが見えました。それはラバンでした。(1ニーファイ4：6-8)



ニーファイはラバンのつるぎを見て、さやから引きぬきました。その時、せいれいがラバンをころすようにささやかれましたが、ニーファイは気がすみませんでした。(1ニーファイ4：9-10)



すると、せいれいがもういちど、しんちゅうのはんを手に入れるためにラバンをころすようにささやかれました。リーハイのかぞくには、ふくいんを学ぶためにしんちゅうのはんがみつようだったのです。(1ニーファイ4：12, 16-17)



ニーファイはせいれいの声にしたがって、ラバンをころしました。それからラバンのきものをみにつけ、よろいをまといました。(1ニーファイ4：18-19)



そして、ラバンの家に行ったところ、ラバンのめしつかいであるゾーラムに会ってしまいました。そこで、ニーファイはラバンの声をまねました。(1ニーファイ4：20)



ニーファイはゾーラムに、しんちゅうのはんをもって来るようにめいじました。ゾーラムはニーファイをラバンだとすっかり思いこんでいたので、しんちゅうのはんをもって来ました。ニーファイはゾーラムに後について来いと言いました。(1ニーファイ4：21, 24-25)



ニーファイがやって来るのを見て、レーマンとレムエルとサムは、ニーファイをラバンだと思い、にげ出しました。そこで、ニーファイはにいさんたちをよびとめました。(1ニーファイ4：28-29)



するとこんどは、ニーファイがラバンではないことが分かって、ゾーラムがにげ出そうとしました。ニーファイはゾーラムをつかまえて、自分たちといっしょにあれ野に行くなら、いのちはたすけてやろうと言いました。(1ニーファイ4：30-33)



ゾーラムは、いっしょにあれ野へ行くと言いました。ニーファイたちはゾーラムをつれ、しんちゅうのはんをもって、リーハイとサラリアのところへ帰って行きました。(1ニーファイ4：35, 38)



ニーファイたちは、しんちゅうのはんをリーハイにわたしました。リーハイとサラリアは、むすこたちのぶじを知ってよろこび、神にかんしゃしました。(1ニーファイ5：1, 9)



リーハイがしんちゅうのはんをよ読んでみると、その中には、アダムとエバの話や、せかいがつくられた話、多くのよげんしゃたちのことばがのっていました。(1ニーファイ5：10-11, 13)



リーハイとニーファイは、主にしたがって、しんちゅうのはんを手に入れたので、とてもしあわせでした。(1ニーファイ5：20-21)



リーハイのかぞくは、しんちゅうのはんをたびにもって行きました。しんちゅうのはんにのせられた神のいましめを、しそんに教えるためです。(1ニーファイ5：21-22)